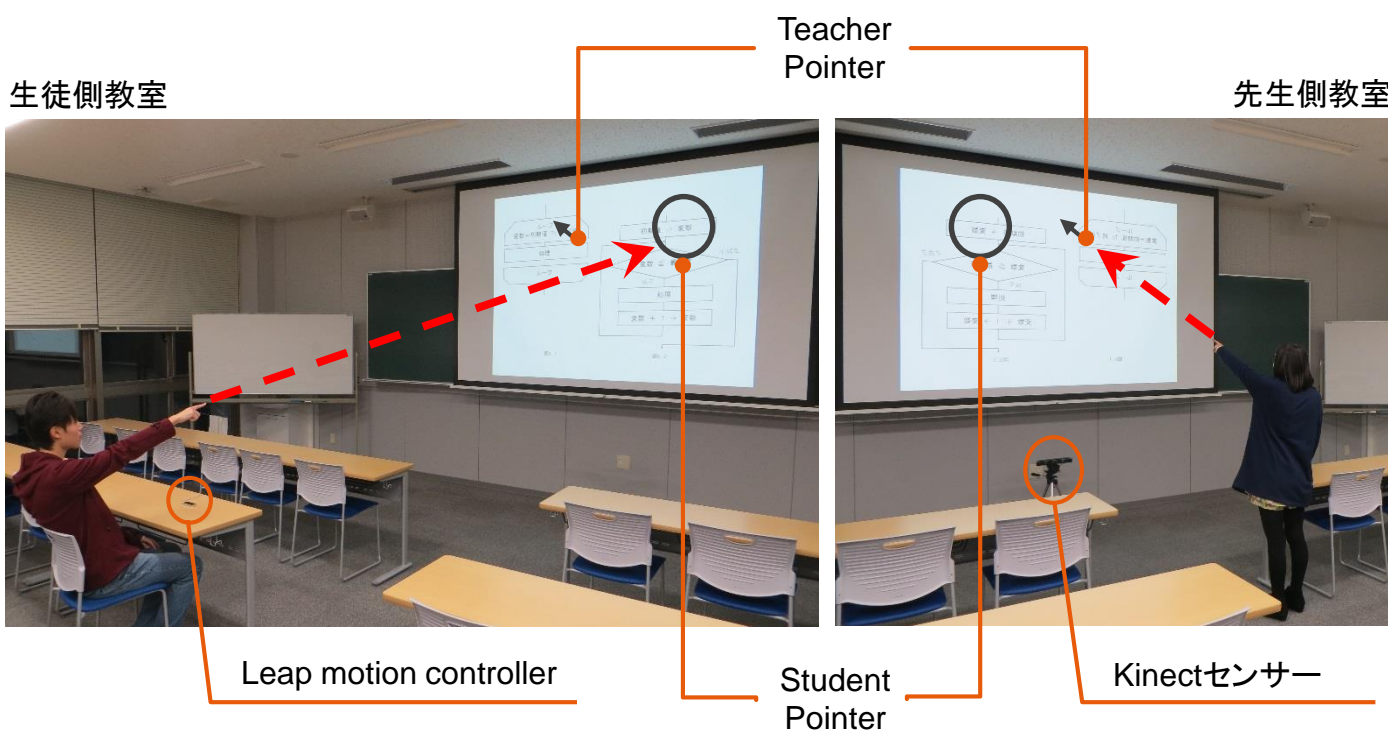


遠隔教育環境における 認知共有支援システムの提案

研究内容

テレビ会議システムなどの技術を利用して離れた場所の相手とリアルタイムに授業を行う遠隔教育があります。遠隔教育では離れた相手と画面を見ながら授業を行うためなかなか自分の意思を相手と共有することができません。

そこで、画面に対し直感的な操作が可能なRemote Touch Pointingを応用することで、座席から動くことなく前方にある画面上のポインターを操作できる技術を研究しています。



研究の進め方

- 認知共有機能の実装
 - それぞれの画面でポインターを共有
- 1. 意思表示支援
 - 指差した延長線上をポインティング
- 2. 認知共有支援
 - 人によってポインターの形状が変化

どうやって評価する？

- 定量的評価
 - 認知共有にかかる時間を比較
- 定性的評価
 - アンケート結果を分析

この研究による効果

- 認知共有までの時間短縮
- 生徒の自発的な意思表示の増加

担当 杉原 慶哉 (すぎはら けいや)

- ひとつこと: 何事にも自ら積極的に挑戦していこう。